

# たいむ

3月号 [H28.3.1 発行]

## ■ みんなで恵方巻を作りました！ ■

2月3日（水）の節分の日には、巻きたい具材を各自持ち寄り、恵方巻を作りました。前日の2日には、あそべ屋（学生企画）で豆まきをしたので、3日は恵方巻にしようということになり急遽決定しました。宣伝期間が短かったにも関わらず、7組18名の方が参加してくださいました。

酢飯はこちらで一升を用意し、飛び入り参加される方の分として恵方巻セットも用意しました。巻きすで酢飯と具材を巻いていく過程では、子どもたちもお母さんと一緒に楽しそうに巻いていました。なかには、お母さんが巻いている様子をじっと良く見ている子、早く食べたいという子と様々で、とても賑やかでした。それぞれに仕上がったオリジナルの美味しい恵方巻に、大人も子どもも舌鼓。親子で楽しい食事の時間になったようです。また、遊びに来た一人の2年生が、子どもたちから元気な声で「お兄さん、お兄さん！」と手を引かれ、嬉しそうでした。（本田）



## ■ ママ企画！！洋服交換会 ■



2月16日（火）から3月18日（金）の1ヶ月間、たいむの廊下では、子ども服を中心に洋服や靴の交換会が行われています。この企画は、「子どもの成長はあっという間なので、お気に入りだった洋服や靴もすぐにサイズアウトしてしまう」「あまり着てない洋服だから、誰かに着てもらえたらいいな」「洋服の整理をしたい」などといったお母さん方の声から生まれました。定期的にお母さん方が計画、準備、宣伝などをして下さって

いて、毎回大好評です。

持ち寄り、持ち帰ったりとカゴの中身が毎日のように入れ替わっています。また、以前の交換会でもらった洋服がまたカゴに戻っていることもあります。それは、「前の交換会で〇〇さんにもらって気に入っていたんだけど、もう小さくなっちゃって。だから、また次の誰かに着てもらえたら嬉しいな」という温かい理由からです。また、「これ家のだ！ 懐かしいな。こんなに小さい洋服を着ていたんだね。また誰か着てくれるかな？」と嬉しそうに話していることもあり、なんだかこちらも嬉しくなります。

みなさんが持ち寄ってくださる洋服などはどれもきれいで、小さな子どもがいるお母さん方には特に喜ばれています。洋服を出す側、もらう側それぞれに喜ばれるこういった企画を通して、人との繋がりが生まれてくるのだなと感じます。繋がりを大切にしながら、更に楽しく・ほっとできる交流の場となるように、「こういう事をやってみたい」などのお母さん企画をお待ちしています。また、企画の案などでも構いませんので、お気軽にスタッフまでお伝えください。（企画準備などお手伝いとしてスタッフも一緒に行きますので、ご安心ください。）

「譲ります・探しています」のコーナーとは別に、「洋服交換会の常設スペース化を！」という声もありますが、みなさんで洋服交換会を常設にしてみませんか？

## ■ みんなが育ちあえる場所 ■



早いもので今年度もあと一ヶ月となってしまいました。この一年を通して、子どもたち一人ひとりがとても大きく成長しているように感じています。そんな中、先日のあそべ屋（学生企画）の最終日に3歳のMちゃんの成長を感じる出来事がありました。

もうすぐ年少児になるMちゃんは、学生のO君（2年生）と一緒に遊ぶことが大好きです。この日も、元気にO君の側で遊んでいました。しかし、帰り際、いつもだったら「また遊ぼうね」と笑顔でお別れをしていたのに、今日でO君と遊べるのが最後だと解ると、「帰らない」「いや」と涙を我慢しながら帰宅を拒んでいました。お母さん、O君もいろいろとMちゃんに話かける中で、O君の「また会えることを楽しみにしているよ」というような言葉が聞こえてきました。楽しい時間があつた分だけ、お別れのときは寂しいものです。O君と離れることが嫌で「もっと遊びたい。だから帰らない。」という思いばかりではなく、これが最後だと理解し、一緒に遊んだO君とのお別れを『寂しい』『悲しい』と感じた様子のMちゃんの心の成長をしみじみと感じました。

後日、Mちゃんのお母さんからお聞きしたのですが、O君も一緒に玄関まで行くと、「お兄さんと写真を撮る」と言って、一緒に写真を撮ったそうです。また、お母さんが「お兄さんがずっとお見送りをしてくれて、ありがとうございましたって言ってくれたんです。すごいなって思いました。」と嬉しそうにお話してくださいました。子どもたちだけでなく、お母さん方とかかわりをもてたこ

とで、少しずつですが保育者になるための準備ができたのかなと思います。そして学生の成長も感じることができました。

Mちゃんの心の中で沢山の思いがあったと思います。こういった出会いや別れは、嬉しいことでもあり寂しいことでもありますが、この出会いが楽しかった思い出の一つになってもらえれば良いなと思います。また、O君以外の学生で、2人のこのやり取りを観ていて何かを感じた学生もいたようです。何かを感じ、気づき、そして一緒に成長していける場なのだなと実感しました。今後の子どもたち、学生の成長や活躍が楽しみです。(本田)

### あそべ屋の活動を支えていただき、ありがとうございました！

10月より始まった「あそべ屋」は、2月16日をもちまして終了しました。ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。

今年の学生スタッフたちは、活動を計画したり実行したりすることに特に苦勞し、仲間と活動を創る難しさとしらさを感じ、10回の取組を満足感を持って終わることができました。

また、2月12日(金)に、学内で行われた「学びの成果発表会」で活動について発表をしました。その模様は、3月にポスターにまとめてたいむの廊下にも掲示しますので、ぜひご覧下さい。



#### ◆あそべ屋の目的と運営の方法

千葉明德短期大学の学生が、ゼミ活動の一環として行う広場です。学生自身が企画を立て、準備し、実践することを通して、保育者や社会人となってから必要となる力を培うために行う地域の親子向けの広場です。通常のたいむのスタッフが関わらないことで、実習のような“従属的”な現場体験ではなく、自らが責任と主体性を持った現場体験とすることも目的の1つです。さらに、仲間との共同作業を通して、協調性や協同性を培うことを目的としました。

活動は、学生が本来、1・2限(9:20-12:30)のゼミ授業時間に縛られず、オープンの準備からはじまり、たいむの開室時間が終了した後も、そうじや反省会を行い、17:00までの活動となりました。過酷なスケジュールに加え、別日に準備や練習なども行い、活動のクオリティは高くはなかったと思いますが、学生なりによく頑張りました。



◆参加学生の感想「あそべ屋を通して」

**荒井優奈**：企画を運営させる大変さと難しさを実感しました。実際に活動をすると違ったということも多々ありました。しかし、それをできる限り良いものにしたり、反省を次に活かすには、仲間との協力が大切だと改めて感じる事ができました。この学びを働く時にも活かしていけるようにしたいと思います。

**伊藤加菜**：1人ではできない事も何人かで協力すれば達成できるという事や失敗しても次に生かすことができれば失敗は失敗でなくなるという事を学びました。また、あまりかかわったことのない人とも一緒に頑張ることで仲良くなれたり、自分の考え方や見方を変える事ができることを知る事ができました。

**江口愛花**：自分たちで計画、活動する事の難しさ、大変さを改めて知りました。でも、1つの活動が終わるごとに達成感を感じました。保育者になった時に実践できる内容が多く、とても勉強になりました。

**大野広和**：5か月という短い期間の活動でしたが、現場に出てから活かすことができる貴重な経験ができました。今までの実習や生活の中では保護者と関わることがあまりなく、どのように関わればよいのかわかりませんでした。しかし、活動を通し少しは分かったように思います。

**大宮優一**：保護者の方とのコミュニケーション、企画を考え遂行することの難しさを実際に感じ1年間学びました。今後、就職時に経験を生かしていければと思いました。

**君塚友美**：自分たちで計画、実践、評価、改善をし、現場で活用する力をつけることができました。最初の頃は保護者の目を気にしてしまったりしてどうかかわれば分からなかったけれど、活動をしていく中で、保護者の方ともいろいろな話をしたりでき、コミュニケーションの幅が広がりました。

**高橋楓**：子どもたちとのかかわり方、保護者とのかかわり方、仲間と協力する事、自分がリーダーとなって行う責任感など様々な事を学びました。ゼミのみんなと仲良くなれて最高の仲間に出会えたと思います。この経験を生かしていきたいと思いました。

**豊田真央**：自分たちが1から考えて計画し、毎回一人一人がリーダーになり、実行する貴重な体験も得られました。企画する楽しさと実行する責任感、たのしい。私の一番の課題である「責任感」をつけることを意識してがんばりました。

**平井美夢**：私は主に環境の工夫を学びました。環境は子どもが過ごしやすだけでなく、保護者の方にとっても居心地を良いものでなければならぬと感じ、保護者の方にも配慮しました。子どもたちが活動に興味を持てるよう、人的環境としての役割も意識して取り組みました。リーダー

になった際には、人前に立ったり指示することを経験し、あそべ屋で新しい自分を見つけられたように思います。

**宮本花梨**：企画を実践することの難しさや大変さを痛感しました。メンバーで協力し合って、同じ目標に向かって協力することは思った以上に大変でした。この経験は就職してから生きると思います。



#### ◆あそべ屋の活動

回	月日	活動	内 容	参加親子
1	10 / 13	小麦粉粘土	附属幼稚園休園日ということもあり、初日から多くの方に来ていただきました。いろいろな色の小麦粉粘土をこねて遊びました。	保護者 15名 子ども 27名
2	10 / 27	ハロウィーン学校探検	学内の4か所にチェックポイントを設け、ウォークラリーをしました。あまり怖くないお化けが子どもの行く先に待ちかまえましたが、堂々と進んでいきました。	保護者 24名 子ども 37名
3	11 / 17	忍者修行	リズム室にて行いました。忍者修行のコーナーをいくつか設け、好きなように修行をしました。	保護者 19名 子ども 27名
4	11 / 24	ミニ運動会	リズム室にて行いました。玉入れ、競争、ダンスなど、体を動かす遊びをしました。	保護者 21名 子ども 30名
5	12 / 8	制作	クリスマスの制作をしました。	保護者 15名 子ども 24名
6	12 / 20	クリスマス会	中庭で行いました。サンタさんが登場し、パン生地をくれました。それを棒につけ、棒パンを焼きました。	保護者 38名 子ども 58名
7	1 / 19	もちつき	毎年恒例の餅つきをしました。蒸して、ついて、こねては学生も初めての体験でした。	保護者 14名 子ども 23名
8	1 / 26	正月遊び	リズム室で行いました。人間すごろくやコマ、たこあげなどをしました。	保護者 11名 子ども 16名
9	2 / 2	まめまき	2体の鬼が登場し、まめをまきました。その後、面をかぶった学生とたたかいごっこに発展しました。	保護者 17名 子ども 27名
10	2 / 16	おたのしみ会	しっぽとりゲームを企画しましたが、それほど参加者も少なく、たいむの部屋でのんびり過ごしました。	保護者 8名 子ども 12名



#### ◇あそべ屋を終えて

あそべ屋開催時に行われたプログラムは、昨年度と同じようなものを実施しましたが、その取り組みや雰囲気は違っていました。今年度は一言でいえば「リーダー不在」「連絡や準備段階での戸惑い」「チームとしてのまとまり」など、明確な不安がありました。しかし、各回で異なるリーダーにし全員が責任を持ったりすることで、徐々に慣れてきました。準備不足や役割分担の徹底がなされていない故のぎこちなさがあったり、緊張のあまり笑顔が出なかったり、会話できなかったりということもありました。

しかし、学生たちにとって、この活動はとても充実感があったようでした。彼らは4月からは、それぞれの現場（保育園・幼稚園・福祉施設等）で保育者や職員になります。この活動によって、仕事に活かせるような何かを得られたのではと期待しています。この活動を通して学生がどんな活躍を見せるのか楽しみです。来年度も実施したいです。（石井章仁）



---

### ■今年も「1年間おつかれさま会」をします！！■

【日 時】3月11日（金） 第1部 11：00～12：00  
第2部 15：00～16：00

【場 所】たいむ

※ 参加費などの詳細は後日お知らせします。

※ 参加される方は、3月9日（水）までに受付にある名簿に記入してください。

当日はみんなでビンゴをしたり、1年間の思い出をスライドショーで振り返ったりします。「子どもたち成長したねー」「子育て頑張ったねー」を実感しましょう。